

# 街包む 彩りのサウンド

大阪のビジネス街を音楽で彩る「中之島まるごとフェスティバル」(愛称・まるフェス、10月14～22日)が今年10回目を迎える。恒例のフェスティバルホール大階段コンサートや木管三重奏のほか、3日連続でジャズイベントが開催され、秋の水都を盛り上げる。

## 中之島 まるごと フェスティバル

2023 10.14 (sat) 22 (sun)

### 元気届け 被災地思う曲も

部「のモットーは「みなさんに愛される活動」。部員たちは日々の学校生活をきつちり過ごすとともに、学校行事や小学校との交流など地域とのつながりも大切にしている。練習では「自分たちで考える」という方針の下、演奏を楽しみながらパートごとに丁寧な音合わせを繰り返す。中高で一つのクラブとの思いが強いのも特色だ。



練習する関西大学北陽高校・中学校吹奏楽部＝大阪市東淀川区

大階段コンサートでは、アニメやテレビドラマの主題歌などのメドレーとともに、大阪音楽大学教授の高島師さんが作曲した東日本大震災被災地への思いを未来につなげるオリジナル曲「私たちは忘れない」や復興支援ソング「花は咲く」を演奏する。顧問の木谷英里香教諭(31)は「大震災の記憶がほとんど無い生徒たちなので、今回のコンサートを震災を見つめ直すきっかけにしたい」と話す。

9月に部長に就任したサクソフォン担当の山下英さん(高2)は、一人一人が活躍できるように部内の役割を振り分けることを心がけているという。コンサートでは「手話や合唱などの演出を取り入れ、聴いてくださる皆さんに楽しんでもらえるよう、元気いっぱい演奏をします」と笑顔を見せた。

2ステージで開演は午前10時30分と午後1時30分。入場無料。コンサート終了後に無料配信で視聴できる。(QRコードから)。(森本宏一)

朝日新聞大阪本社アサコムホール(中之島フェスティバルタワー12階)では期間中、四つの音楽イベントが開かれる。

### 木管の夕べや3日連続ジャズ

今年3日連続で関西ジャズ協会員らで編成する3グループが心地よい演奏を繰り広げる。19日(木)は葦内良治クインテット、20日(金)は大場知之&生田さち子トリオが出演するジャズライブで、いずれも仕事帰りに立ち寄れる午後6時開演。21日(土)は西村有香里・西田あつ子&大塚善章オリジナルトリオによるジャズコンサート。開演は午後1時と3時(入れ替え制)で、休日の午後をじっくりと楽しむ。定員は19日が60人、20日と21日が120人(いずれも抽選)、無料。申し込み、内容の詳細や問い合わせ先はQRコードから。10日締め切り。(八田雅代)



み、詳しい内容や問い合わせ先はQRコードから。5日締め切り。



(左から) 福田淳、國府利支恵、大場昂平



(左上から時計回りに) 葦内良治、生田さち子、大場知之、西田あつ子、大塚善章、西村有香里



◇期間中の主な催し  
【中之島マルシェ】  
10月14日(土)午前11時～午後4時、中之島フェスティバルタワー・ウエスト1階。とれたての新鮮野菜のほか、鳥取市の物産品や東日本大震災復興支援として東北の福祉事業所で作られた商品も販売  
【フラワープレゼント】  
10月14日(土)、20日(金)。大阪産のピオラの花を無料配布。日時と会場は次の通り(先着順)  
◆14日午前11時、中之島フェスティバルタワー

・ウエスト1階オープンスペース、500人  
◆20日午前11時、堂島クロスウォーク1階エレベーター前、100人▽午前11時半、ダイビル本館1階エントランス、200人▽午後0時半、京阪渡辺橋駅地下1階MINAMO、200人  
【東日本大震災写真展「フクシマ無窮～遺作から」】  
10月14日(土)～22日(日)、中之島フェスティバルタワー13階スカイロビー。津波と原発事故の被災地・福島で人々の暮らしやまちの姿を撮り続け、今年1月に急逝した元朝日新聞記者・渡辺幹夫氏。その作品から「フクシマ」を振り返る

◇連携プログラム  
【生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪2023】  
10月28日(土)、29日(日)。中之島フェスティバルタワー・ウエスト、ABC本社ビル、ダイビル本館、中之島三井ビルディングなど170以上の建物を公開。詳細は公式HP (<https://ikenchiku.jp/>)

■主催 中之島ウエスト・エリアプロモーション連絡会(構成メンバー:朝日新聞社、朝日ビルディング、ダイビル、三井不動産、オリックス不動産、朝日放送グループホールディングス、京阪ホールディングス、西日本旅客鉄道)  
■後援 大阪府、大阪市  
■連携 中之島まちみらい協議会、生きた建築ミュージアム大阪実行委員会、大阪府花き園芸連合会